



卒業を祝して

歯学部長 前田 健康

歯学科第42期生の皆さん、口腔生命福祉学科第5期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業までの道のは決して平坦ではなく、卒業の日を迎えるに至る努力を続けてきたことに敬意を表すとともに、心よりお喜び申し上げます。また、これまで卒業生の皆さんの勉学を支えてこられました保護者、ご家族の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。

皆さんは、新潟大学歯学部の教育課程をすべて修了し、歯学士、口腔保健福祉学士となり、この春からさまざまな道に進みます。進む道は各人で異なるものの、歯科医学・医療、口腔保健・福祉に携わり、国民の健康の維持・増進に寄与するという皆さんの目標は同一であると思います。

皆さん、自分の将来に夢を持ちましょう。夢を追ってこそ、人生は充実したものになります。イギリスの思想家 James Allen は「あなたの夢は、やがてあなたが何になるかを示す予言である」と述べています。卒業は到達点ではありません。米国大学での卒業式（学位授与式）の学長・学部長の挨拶を commencement address といいます。commencement すなわち「始まり」です。Apple 社の故 Steve Jobs 氏が唱えた「Stay hungry, Stay foolish」は2005年の Stanford 大学での commencement address の一節です。今日迎えた卒業の日は、新たな夢に向かってスタートをきる

出発点です。これからの長い人生に向けて夢・目標を設定しましょう。皆さんが大学教育で学んだ知識・技能・態度はまだ必要最低限のもので、夢の実現に向けたこれからの生涯を通じた学習、研修によって社会的な地位が得られるものです。皆さんは自分の目標に向かって、さらなる精進が必要です。James Allen はさらに「成功を引き寄せるのは日々の努力なのです。成功を手にできない人は自分の欲望を犠牲にしようとしません」とも述べています。歯科界は少子高齢化、歯科疾病構造の変化、歯科医師需給問題などパラダイムシフトの渦中にあります。この変革する時勢に適応していくために、自分をさらにスキルアップするための目標を設定し、努力しつづけてください。歯科医療・口腔保健従事者という職業を真摯に受けとめながら、プロフェッショナルとしての自信と勇気を持って、社会に対して積極的に貢献することを目指してください。

皆さんが今日巣立っていく新潟大学歯学部は競争が激化している歯科界の中で、高い評価を受けています。我々教職員は皆さんに対し、これからの社会で勝ち抜くために必要な考え方、知識、技能を授けてきたと自負しています。新潟大学歯学部を卒業したという誇りを持って社会に羽ばたいて行って下さい。

皆さんの今後の活躍を大いに期待しています。



ご卒業おめでとうございます

医歯学総合病院副院長（歯科担当） 興 地 隆 史

歯学科第42期生ならびに口腔生命福祉学科第5期生の皆さんには、ご卒業誠におめでとうございます。皆さんの光り輝く未来に心から祝福を申し上げます。皆さんは今、社会人として羽ばたく新たなスタート地点に位置しています。新潟大学歯学部で培った知識や技術を礎として、歯科医学や歯科医療、あるいは社会福祉、口腔保健の領域から社会に貢献するための高い目標を持って、今後楽しく充実した日々を過ごし下さい。

さて、皆さんの学生生活の最後の一年間は、未曾有の震災からの復興という激動の年でありました。当たり前のように享受していた日常の喪失に始まり、元の正常な状態にはたして復帰できるのか、それがいつになるか誰にもわからない状況を経て、現在では完全復興とは言えないまでも、活気は確実に取り戻されつつあります。このプロセスを表すキーワードとして、「絆」、「輪」、「新生」、「協働」、「忍耐」、「活力」など、さまざまなものを思い浮かべることができますが、これら1～2文字に含まれる意味の重さ、深さをこれほど考えさせられる機会はこれまで無かったように思います。医療従事者としての自らのあるべき姿や社会からの特別な期待を重ね合わせて考えれば、尚更のことです。

このような震災復興という特別な状況に限らず、皆さんはこの度の卒業を機に、さまざまな形で社会からの期待を背負うことになります。将来を担う皆さんには、これに応えるべく常に前向きであって欲しいと願っています。そして、卒直後

の数年間はそのための基礎的な力を身につけるための大変重要な時期であることは疑いありません。皆さんの今後には紆余曲折もあろうかと思いますが、努力を重ねれば必ずや素晴らしい未来が拓けることと思います。

また、私達の職業には生涯にわたる学習が求められます。現在の社会情勢は医療者にとっても厳しいものと言わざるを得ませんが、その中で「勝ち組」として成功するためにも不可欠になります。日進月歩の歯科医学や歯科医療の世界に身を置く限り、学ぶべきことは無限にあります。吸収力が豊富な今を是非とも大切にして下さい。新潟大学歯学部の教育カリキュラムを修了した皆さんには、自ら考え調査する能力など、長い生涯学習の道りを歩み続けるための基礎的な力がすでに備わっているはずです。それをさらに発展させながら、プロフェッショナルとしての地位を築き上げて頂けることを心から期待しています。

2012年は医歯学総合病院歯科部門にとっては、外来の移転という数十年に一度の節目というべき年となります。現在は新天地でのスタートへの準備中ということで、卒業直前の皆さんの姿にも喩えられる時期にあります。新しい外来棟への移転後は、地域拠点病院としての高度な診療・研究・教育機能の維持・発展に向けた心機一転の取り組みが始まることとなります。卒業生の皆さんにも、今後のさまざまな方面からの支援をお願いしますとともに、皆さんの中から将来の本院歯科を支える人材が輩出されることを期待しています。

卒業にあたって

歯学科6年 川 又 烈 志

私が入学して早いもので6年が経とうとしています。入学したときは6年間の学生生活は長いものだろうなと思っていましたが、実習が始まってからはあっという間の学生生活であったように感じます。

そんな6年間でしたが、今でも昨日のこのように赤塚での合宿を思い出します。入学してすぐ行われた赤塚での合宿で、歯学部の方や6年間切磋琢磨してきた仲間たちと出会い、歯学部での貴重な6年間の学生生活がスタートしたのです。

6年間の学校生活では運動会、クラスマッチ、飲み会、部活、実習など……実に様々なことがありました。その中でもやはり一番充実していたと思うのは、5年生後半からスタートした総合診療部での臨床実習です。この実習では初めて患者様と接し、ライターの先生方の指導の下に、実際に歯科治療を行いました。模型実習で一通りの治療練習は行っていたものの、実際の患者様を相手に行う治療では初めて体験することが多く、毎日毎日が勉強となりました。そんな1年間の臨床実習の中で、一番印象に残っているのは全部床義歯の製作です。私は主治医の先生と技工士の先生の指導のもと、義歯を最初から最後まで作りました。技工士の先生と少し朝早く来て作業を行ったこともありました。このような長い時間をかけ苦労して、一生懸命作った義歯が今日も患者様のお口の中で機能し、食事をサポートしているのだと思うと、とても嬉しい気持ちになり、歯科医師の仕事のやりがいを大変感じます。また、学生の非常に長い診療時間にも関わらず、毎回毎回ありがとうとおっしゃってお帰りになられる患者様に本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。臨床実習では、1年間で本当に多くのことを体験・学習することができました。また、歯科治療の重要性ややりがいを肌で大いに感じる事ができた一年でもありました。

私たちがこのような充実した臨床実習を行えた



のは、患者様の新潟大学歯学部での教育へのご理解とご協力、そのような実習体制を整えてくださった藤井教授、堀先生をはじめとする先生方の支援、毎日診療に付き添いサポートして下さったライターの先生方、6年間励ましあって一緒に卒業を迎えた仲間、そして家族の支援。私はこの6年間、実に多くの方々の温かいご支援・協力のもとに非常に充実した大学生活を過ごしてこれたのだと感じています。

また、これから臨床実習を迎える後輩のみなさんは、新潟大学ではこのような恵まれた環境で実習を行えます。しかし、これだけ多くの方々の協力や努力があって成り立っている実習であるので、それに見合った勉強や姿勢が必要となります。このことを忘れずに日々の講義や実習に臨んでいただければ、より充実した臨床実習になると思いますので頑張ってください。

最後になりましたが、6年間支援して下さった多くの人々に心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。みなさんの期待に応えられるような立派な歯科医師になれるよう、向上心を忘れずに日々努力していきたいと思えます。

卒業にあたって

歯学科6年 濱 松 亜由美

私が卒業に関する歯学部ニュースの原稿を書くのは、2度目になります。というのも、4年前に口腔生命福祉学科を卒業して、歯学科に編入し、このたび卒業を迎えたからです。

それにしても、新潟大学歯学部にて8年間在籍し

た間に書いた歯学部ニュースの原稿が、どちらも卒業に関するものというのは、運命めいているなあと思います、書かせていただくことになりました。

私が歯学科に入学して心に残っているのは、3年次と5年後期からの臨床実習です。

3年生では編入生のため、2年生と3年生の単位を取得せねばならず、最初は習得すべき膨大な情報量で、覚悟して入学したものの、進級は2ヶ年計画だなと思いました。

毎日がテスト期間のような感じで、脳の許容量と戦う日々でした。しかし、この自分の限界と戦う日々は、自分の人生の糧になる、得がたい経験だったと思います。

臨床実習では、処置に時間がかかったり、来院日数が多くなったりと、患者様やライターの先生方に迷惑かけることが多々あり、落ち込むこともありました。しかし、嫌な顔せず診察に付き合ってくれ、温かい言葉をかけてくださる患者様は本当に神様のような方でした。

そんな中、四苦八苦しながら製作した補綴物がセットできて、患者様が喜んでくれたとき、PMTCの後に気持ちよかったと言ってもらえたときなどの嬉しい瞬間もたくさんありました。今後、知識や技術を習得し、歯科医師として成長していくのが楽しみです。

最後に、8年間もお世話になった新潟大学歯学部で学べたこと、出会えた友達、先輩、後輩、お世話になった先生方は、一生の宝物です。そして、8年間も学生でいさせてくれた家族にも感謝です。ありがとうございました。

今度は歯学部で学んだことを生かして、多くの人々の幸せにかかわれるよう、精進していきたいと思います。

卒業にあたって

口腔生命福祉学科4年 田村 恵利

編入生の私は2年間と短い学生生活でしたが、充実した毎日のおかげであつという間に卒業シーズンです。私は歯科衛生士の免許を持って入学したので、3年生の頃は福祉の授業のみでした。現



役生が病院実習に向かうのを横目に早々と帰宅、思う存分に自分の時間を過ごしていました。

4年生から病院実習が始まり、空き時間が全くなくなりました。初めての診療室、機材や材料の配置も全くわからない状況からのスタートでした。新潟大学医歯学総合病院は特定機能病院とだけあって、専門科目がとても多いです。新しい経験ができる反面、やっとな慣れてきた診療科を1週間で移動することがほとんどで、手慣れたアシストのできる実習生になれたときは一度もありませんでした。また以前の学校と実習内容が異なると、常識だったことが非常識になったり、逆だったりもしました。材料・器具の呼び方が全く違うときはもうお手上げ状態。先生方もびっくりされたことでしょう。空回りが多く、実習に対して嫌悪感をいだくこともありました。常に抱いていたかもしれない。けれども、極たまに「もしかして免許ある？ お、やっぱり！」「サクシオン上手だね、経験者？」などのお言葉を頂いたこともあり、単純な私はその一言でモチベーションをあげることができました。

学生は学ばなきゃ損、背伸びしないでありのままに教わろうと考えてからは、疑問があれば積極



的に質問し、自分のスキルアップに繋がられるように努力しました。同じ実習でも嫌々にこなすのと向上心を持って挑むのとでは、自分自身の成長の仕方が全く異なるものだと感じてきました。

特に摂食・嚥下リハ室では、新しい経験をたくさんさせて頂きました。中でも病棟での口腔ケアは、私自身で完璧だ！と感じた一般的なケアでも、気づかぬうちに患者様の命に関わる危険な行為がいくつもありました。そのつど細かくご指導いただいたことにより、私も納得しながら反省して次にいかすことができました。丁寧に指導して下さったドクター、歯科衛生士の方々に心から感謝いたします。

福祉の分野では、施設実習で特養に1ヶ月間お世話になりました。介護業務全般を想像していたのですが、食事介助や入浴補助、車椅子移動といった軽作業のみで、たいていの時間は利用者様とお話をしたりレクリエーションに参加したりしてゆっくり過ごしていました。毎日お話しているのに次の日には「あら、あなた誰かしら！」と頬に手を当てて目を丸くしながら可愛らしい発言をされる方もいて、心底癒されていました。こっそり変顔をすると大爆笑してくれる方や、私が負けてしまうような変顔で返してくる方もいらっしゃいました。毎日が本当に楽しかったです。職員の方々も利用者様と上手にコミュニケーションをとっていて、施設は常に穏やかでした。またカンファレンスに参加させていただいたり、デイサービスのおでかけや居宅介護支援に同行させていただいたりもしました。この貴重な体験を忘れずに、社会に出てからも生かしていきたいと思えます。

福祉施設実習やその考察、特論の作成、国家試験勉強に就職活動、さらに毎日の病院実習の予習

復習、記録などなど……口腔生命福祉学科の4年生は大忙し。そのどれもが重要で、なのにどれもうまくいなくて苦労しました。それでも、同じ境遇にいる仲間と励ましあってなんとか乗り越えることができたと思います。決して完璧じゃなくても、懸命に取り組んだプロセスは私の誇りです。最後に2年間温かく見守って下さった口腔生命福祉学科の先生たちに心から感謝いたします。

卒業にあたって

口腔生命福祉学科4年 渡辺 一葉

広い会場での入学式。夢を膨らませて入った五十嵐キャンパス。PBLの資料をあさり、授業終わりに通った図書館。緊張して入ったお口の健康室。歯科衛生士の方の見学実習をした歯科病院・施設。毎日のようにあった臨床実習。約1ヶ月間あった福祉実習。歯科保健指導を何とかこなした手話サークル……。

口腔生命福祉学科5期生は、今まで卒業した先輩方のクラスよりも少なく、約25名。狭かったような、広がったような教室で、ほぼ毎日講義を聴きました。その教室で、お誕生日会をした時のお寿司の味は、どこで食べるよりも美味しかったような気がします。

それから、PBL。講義よりもPBLの方が楽しかったように思います。その理由は、クラス全員が教えてくれたような気がします。人の意見に耳を傾け、お互いを尊重しあうからだ。

そして、歯科衛生士の臨床実習は、毎回毎回、学ぶことの連続でした。先生方、歯科衛生士、看護師の方、放射線技師の方、患者様……。たくさんの方から学ぶことができました。色々な方に迷惑をかけてしまい、また、自分自身の出来なさに落ち込むこともたくさんありました。実習を通して、患者様や、先生等から「ありがとう」の一言が頂けた時は、本当に嬉しかったです。様々な事を教えて下さった事や、学び続ける姿勢というもののおかげを創って下さったことに感謝したいと思います。

最後に、手話サークルでの歯科保健指導です。

私が3年生の時に、同じのクラスのメンバーが立ち上げてくれました。手話の先生を迎え、隔週で行った手話で何ができるようになるのかと最初は思いました。4年生になり、亀田のふれ愛プラザにて、手話での歯科保健指導が実現することができました。当日は、聴覚障害の方が集まらないのかもしれないというお話もありましたが、施設を利用している聴覚障害の方はもちろんのこと、身体障害の方も来てくださいました。初めての試みだったため、スムーズな進行は難しかったですが、無事に終わることができました。それは、1年生、3年生、4年生、手話を教えて下さった石橋先生、名誉顧問である鈴木先生を初めとした先生方、ふ

れ愛プラザの方々の支えがあったからだと思えます。ありがとうございました。

今現在、手話サークルの後輩が少ない状態にあります。私が、卒業した後も存続しているのかどうか気かけながら、今後自分自身の手話のスキルアップを目指したいと思えます。

思い出に残っている事は……というより、様々な人との出会いが私を成長させてくれたのだと思えます。今後、社会福祉士ではなく、歯科衛生士の資格を活かすこととなりました。歯科衛生士も社会福祉士も専門職ですが、今まで学んできたジェネリックな視点を持ち続けて、努力していきたいと思えます。本当にありがとうございました。

